

中学校版

各教科における「指導と評価の一体化」のための学習評価のポイント

本資料では、各教科における評価方法や評価の場面、留意点等の例を紹介しています。

日々の授業においては、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）や本資料を参考にしながら、授業の質の向上を図り、子どもたちに未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいくことを期待しています。



教育庁義務教育課

中学校国語「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点			
				知	思	態	
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の目的や場面、相手などを意識しながら言葉を選ぶ等のよい学び方を取り上げて広める。 ・説明の仕方のよいところ等を評価し、全体に広める。 ・視点を提示して書かせたり、よい学び方は紹介したりする。 	・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認しておく。 ・「努力を要する」状況(C)への対応を想定しておく。	○	○	○
	発言(ペア・全体)				○	○	—
	振り返り(感想等)				○	○	◎
	ワークシート、ノート等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・よい学び方は、掲示する等して広める。 →記述の内容が不十分な場合は、生徒の学習状況に応じて助言したり、確認するよう促したりする。 		◎	◎	◎
	小テスト	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着の確認等を目的に実施する。 		◎	△	—
	生徒の書いた意見文等	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ・どこがなぜよいかを紹介する。 		○	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ・観察により把握した個々の生徒の学習状況と記述の内容とを照らし合わせて、評価に反映する。 	・単元のどの段階でどの評価基準に基づいて評価するか決定しておく。 ・言語活動を評価するのではないことに留意する。	—	○	◎
	発言(ペア・全体)				○	○	△
	振り返り(感想等)	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が楽しかった」のような「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述を評価の対象にしない。 		△	△	◎
	ワークシート、ノート等	2、3回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート等を提出しているかどうかではなく「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述から評価する。 		◎	◎	◎
	単元(小)テスト	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で育成をめざした資質・能力(指導事項)の定着を確認する問題を作成する。 		◎	○	—
	生徒の書いた意見文等	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準に基づいて、どこがよいのか具体的に伝えるように簡潔にコメントする。 		—	◎	○

◎…積極的に評価の対象とする ○…評価の対象とする △…場合によっては評価の対象とする

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校国語「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する「調査報告書」をダウンロードしてください。

中学校国語 3年 投書を書こう～多様な読み手を想定して文章全体を整える～「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観点			
				知	思	態	
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 投書の下書きを書く際、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫しようとしている生徒を価値付ける。 情報の整理や下書きの推敲の際、これまで学習したことを想起して考えようとしている発言を取り上げ、広める。 	・年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を確認しておく。(指導事項に基づいて指導を行うが、単元の目標としていないことから本単元の評価に含めない時間がある) ・「努力を要する」状況(C)への対応を想定しておく。	-	○	○
	発言(ペア・全体)						
	ワークシート	1回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 意見と根拠を整理する際、根拠に関連する出来事や事実を複数関連付けているものは、掲示する等して紹介する。 →記述が不十分なものは、具体化すべき箇所を指摘し、具体を想起するよう促す。 		◎	-	-
	振り返り	適宜	<ul style="list-style-type: none"> どのように試行錯誤したのか、本単元で学んだことを、今後の学習でどのように生かしたいのかを考えさせる。 		-	○	◎
	下書き原稿	2,3回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現について、特に丁寧に検討しようとしているものは紹介する。 →多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現になっていない場合は、生徒の学習状況に応じて助言する。 	-	◎	○	
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	ワークシート	1回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見について、具体的な事例で説明できているかをワークシートの記述から評価する。 	・単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか決定しておく。	◎	-	-
	下書き原稿	2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ワープロの校閲機能を用いて推敲した文章等から評価規準と照らし合わせて評価する。 ワープロのコメント機能を用いた記述内容と下書き原稿から、試行錯誤しながら表現を整えようとしているかを見取り、評価に反映する。 		-	◎	-
				・言語活動(投書)を評価することではないことに留意する。	-	-	◎

◎…積極的に評価の対象とする ○…評価の対象とする △…場合によっては評価の対象とする

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校社会「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	授業中の発言や記述内容の価値付け	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の発言や記述内容から生徒の学習状況を把握し、社会的な見方・考え方や既有知識等を生かした発言を肯定的に価値付ける。 生徒の疑問や誤解等に適宜説明を加えたり、授業展開に生かしたりする。 	○	◎	◎
	振り返り(感想や疑問等)への助言	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の振り返りから、学習の定着状況や新たな疑問等を把握するとともに、必要に応じて、その後の授業で取り上げる。 	○	○	○
	単元テストへの助言・授業での補足	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> 事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題から知識及び技能等を把握するように努める。 知識及び技能等の定着が不十分な場合は、授業での補足や個別指導の手立て等を講じる。 	◎	○	—
	レポート等の解説や改善点の助言	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> 単元を見通した問いを基にレポート等を作成させることで、単元で設定した目標への到達状況等を把握し、助言する。 レポートの模範解答を示すことで、改善点を具体的に示す。 	○	◎	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	授業中の発言や記述内容の記録	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> 各観点の趣旨に即した発言を取り上げ、評価に反映する。 発表の回数のみで評価しない。発言の内容を吟味し、三観点と関連付けて評価する。 	○	○	○
	振り返り(感想や疑問等)の記録	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の課題解決に向けて取り組んだ内容や解決のための着眼点、新たな疑問等が記述されているかを把握し、評価に反映する。 ノートやワークシートの提出状況のみで評価しない。 	△	○	○
	単元テスト等の結果の記録	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> 事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮して出題する。 細かな事象の羅列のみにならないように留意する。 	◎	○	—
	レポート等の内容の記録	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> 単元を見通した問いを基にレポート等を作成させ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、表現しているかを評価する。 	○	◎	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校社会 1年 「中世の日本」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点			
				知	思	態	
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	授業中の発言や記述内容の価値付け	毎時間	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観 点 ご と に 分 け て 記 載</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「中世とはどういう時代か」という単元の課題を追究する中で、課題解決に必要な既存の知識をもっているかを見取り、生徒の理解度に応じて説明を加える。 ・「中世とはどういう時代か」という単元の課題を追究する中で、前の時代で学習した内容等を活用して、毎時間の課題をどのように解決しているかを見取り、助言する。 ・「中世とはどういう時代か」という単元の課題を追究する中で、古代の特色を明らかにした際の視点を参考にしながら課題を明らかにしようとする姿勢を見取り、肯定的に価値付ける。 	○	—	—	
				レポート等の解説や改善点の助言	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・「中世とはどういう時代か」というレポートに、時代の特色を明らかにするための視点が含まれているかなど、単元で設定した目標への到達状況等を把握し、事後の指導に生かす。 	—
○	◎						◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	授業中の発言や記述内容の記録	必要に応じて	<ul style="list-style-type: none"> ・「中世とはどういう時代か」という単元の課題を追究する中で、各観点の趣旨に即した発言を取り上げ、評価に反映する。 	○	○	○	
	単元テスト等の結果の記録	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・中世に関するテストを実施し、武家政治の成立とユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成等を理解しているかを把握する。 	◎	○	—	
	レポート等の内容の記録	1回程度/単元	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観 点 ご と に 分 け て 記 載</div> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの記述内容に、政権の成立や崩壊過程等、他の学習の場面でも活用できる概念が述べられているかを把握する。 ・レポートの記述内容から、武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達等に注目しているかを把握する。 ・レポートの記述内容に、課題を追究する上での視点や行き詰まりの打開策を述べるなど、主体的に取り組んでいるかを把握する。 	○	—	—	
—				◎	—		
—	—			◎			



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



「対一の歴史」を学ぶ

中学校数学「学習評価と評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・参考になる考え等を取りあげて紹介する。	○	○	—
	説明（発表）ペア	毎時間	・どの程度身に付いているか等を把握する。	○	△	—
	全体	毎時間	・既習の内容に基づいた説明等のよいところを評価する。	○	○	—
	振り返り（感想等）	毎時間	・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述等は紹介する。	△	◎	◎
	ノート、宿題等	3、4回/単元	・参考になるノート（学び方）は、提示や通信等で紹介する。	—	◎	◎
	確認問題	知識・技能は多め。思考・判断・表現は必要に応じて。	知識・技能に重点をおいた授業では、習熟の確認を目的に、 <u>毎時間の授業の終盤に確認問題を実施</u> するのが望ましい。 →①全体の定着状況が不十分であれば、次時の授業構想を変更する。 ②個別指導等の手だてを講じる。	◎	△	—
レポート	1回程度/単元	・レポートの優れている点を紹介し、コメントを入れる。	—	◎	○	
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	・数学的な見方・考え方等を取りあげ、評価に反映する。	—	○	◎
	説明（発表）全体	ねらいを明確にして適切に	・発表の <u>回数のみ</u> で評価しない。「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	・「 <u>授業がおもしろかった</u> 」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。	○	○	◎
	ノート等	3、4回/単元	・ <u>ノートやワーク等を提出しているかどうかのみ</u> で評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。	△	○	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・授業の確認問題をベースに単元テストや小テストを実施し、生徒が自分の理解度や取組等を振り返られるようにする。	◎	○	—
	定期テスト等	適切に設定する	・事実的な知識だけでなく知識の概念的な理解に関する問題を扱う。また、知識・技能に偏らないような構成にする。	◎	◎	—
レポート	1回程度/単元	・コメントを返すことで評価する。	—	◎	○	



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校数学 1年 「一元一次方程式」における「学習評価と評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を用いて既習の方程式に変形する等の考えをとりあげて広める。 立式するための、数量の関係を整理した表や図等を共有する。 書き方の視点を提示して書かせ、よい記述等は紹介する。 	○	○	—
	説明（発表）ペア	毎時間		○	△	—
	全体	毎時間		○	○	—
	振り返り（感想等）	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を用いて既習の方程式に変形する考え等をまとめたノート（学び方）は、提示や通信等で紹介する。 簡単な一次方程式を解くことができるか、<u>毎時間の授業の終盤に確認問題を実施する。</u> 	△	◎	◎
	ノート、宿題等	3、4回/単元		—	◎	◎
確認問題	毎時間 (主に知識・技能)	<ul style="list-style-type: none"> →①全体の定着状況が不十分であれば、次時の授業構想を変更する。 ②個別指導等の手だてを講じる。 	◎	△	—	
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を用いて既習の方程式に変形する考え等の数学的な見方・考え方をとりあげ、評価に反映する。 	—	○	◎
	説明（発表）全体	ねらいを明確にして適切に	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質によって移項が導かれることの説明等の「<u>知識・技能</u>」「<u>思考・判断・表現</u>」を関連付けた説明を評価する。 	○	○	△
	振り返り（感想等）	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を用いて既習の方程式に変形することの記述等、「<u>知識・技能</u>」「<u>思考・判断・表現</u>」と関連した記述を評価する。 	○	○	◎
	ノート等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ノートやワーク等を出しているかどうかのみで評価するのではなく、「<u>知識・技能</u>」「<u>思考・判断・表現</u>」と関連のある記述を評価する。 	△	○	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な一次方程式を解くことができるか、授業の確認問題をベースに単元テストや小テストを実施する。 	◎	○	—
定期テスト等	適切に設定する	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質によって移項が導かれる等、知識の概念的な理解に関する問題を扱う。方程式の立式の観点は「<u>知識・技能</u>」とする。 	◎	◎	—	



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校理科「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・参考となる考えや優れた実験計画等を取り上げて共有する。	○	○	—
	説明（発表）ペア	毎時間	・観察、実験等の知識・技能が身に付いているかを把握する。	○	△	—
	全体	毎時間	・理科の見方・考え方を働かせている場面を評価する。	○	○	—
	振り返り(感想等)	毎時間	・書き方の視点を提示して書かせ、よい記述は紹介する。	○	◎	◎
	ノート、レポート ワークシート等	単元で数回	・参考となるノート（学び方）は、掲示等して紹介する。 ・自然の事物・現象についての知識や、観察、実験などに関する基本的な技能（スケッチ等）が身に付いているか状況を把握する。	◎	◎	◎
	ペーパーテスト パフォーマンステスト	単元で数回	・基本的な概念や原理・法則などを理解しているか、観察、実験の基本操作を習得しているか状況を把握する。 →①定着状況が不十分であれば、授業構想を変更する。 ②個別指導等の手だてを講じる。	◎	○	—
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	顕著な姿	・観察、実験の基本操作が身に付いているか、理科の見方・考え方を働かせているか等について行動観察し、評価に反映する。	○	○	○
	説明（発表）	ねらいを明確にして適切に	・発表の回数のみで評価しない。ねらいを明確にして、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。	○	○	△
	振り返り(感想等)	単元で数回	・「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り出して評価の対象にしない。	○	○	◎
	ノート等	単元で数回	・ノートや宿題等を出しているかどうかのみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。	△	◎	◎
	単元（小）テスト	1、2回/単元	・「事実的な知識の習得」だけでなく「知識の概念的な理解」に関する問題をバランスよく出題する。	◎	○	—
	ワークシート レポート	観察・実験	・ワークシートの記述・描画を分析し、評価する。実験のレポートにはコメントを入れる。	◎	◎	○

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校理科 3年 「運動の規則性」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面の傾きの違いによる力学台車の運動の様子の変化に着目し問題を見いだしているか、特徴的な生徒の学習状況を把握する。 ・記録タイマー等の道具を正しく操作しているか把握し、改善に生かすことができるように働きかける。 	○	○	—
	ノート、レポート ワークシート等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果から、時間と速さ、時間と移動距離との関係を見いだして表現しているかを把握し、よい記述は紹介する。 	◎	◎	◎
	ペーパーテスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・運動には速さと向きのある要素があることや、物体の速さは単位時間に移動する距離で表されることを理解しているか把握する。 →①定着状況が不十分であれば、授業構想を変更する。 ②個別指導等の手立てを講じる。	◎	○	—
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	顕著な姿	<ul style="list-style-type: none"> ・水平面に対する斜面の傾きと速さの変わり方の規則性に関する発言や、探究の過程を科学的に考察する発言を取り上げ、評価に反映する。 	○	◎	△
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決する過程において、「どのような知識及び技能を活用したか」、「誰とどのような対話をしたか」、「何に気付いたか」を振り返りの記述から評価する。 	○	○	◎
	ノート、ワークシート(レポート)等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・斜面を下る力学台車に働く力の大きさと、力学台車の速さの変わり方の規則性を見出しているか、ワークシートの記述から分析し評価する。 	◎	◎	○
	単元(小)テスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動の速さと向き」「力と運動」に関する知識については、単元の前半では記録に残す評価は行わず、単元末テストで評価する。 	◎	○	—



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校音楽「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・つぶやきの状況や他者の発言内容に対する反応の様子などを観察する。	○	○	○
	演奏（歌唱）の聴取	毎時間	・個人、ペア、グループでの活動の際に、部分的にフレーズを取り出して聴取するなど学習形態を工夫する。	◎	○	△
	発言	毎時間	・知覚したことと感受したこととの関わり、音楽表現の共通性や固有性等について考えている（思考・判断・表現）等のよい発言を取り上げ、広める。	◎	◎	○
	振り返り（感想等）	毎時間	・活動の様子について質問したり、その時間に書いたワークシートの記述を見直すように助言したりするなどして、ねらいに沿った振り返りができるようにする。	○	◎	◎
	ワークシート等	毎時間	・楽譜に書き込まれた言葉や記号などから曲想と音楽の構造等との理解の状況（知識）等を把握する。	○	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・生徒の状況を常に把握し、工夫ある指導を十分に行う中で、評価規準に基づいて生徒一人ひとりの状況をA・B・Cで判断し、記録に残す。	◎	○	○
	演奏（歌唱）の聴取	適宜	・「知識・技能」の習得状況等について、 <u>継続的に把握し、適宜記録に残す</u> 。発声、言葉の発音などの技能について <u>学習した内容が表現に表れているか</u> （技能）等を評価する。	◎	○	△
	発言	適宜	・発言の回数のみで評価しない。 <u>意見交換や他者への助言の内容から判断し、ワークシートの記述のみでは判断できない側面を補完する</u> 。	◎	◎	○
	振り返り	適宜	・自己評価を行った結果がそのまま学習評価に結びつくものではない。自らの状況を適正に捉え、その理由としてよかった点や改善点などに気付いている（主体的に学習に取り組む態度）等、評価の観点について <u>生徒と共通理解を図っておく</u> ようにする。	○	○	◎
	ワークシート等	適宜	・ <u>提出状況や記述量だけで評価しない</u> 。 <u>感じ取った曲想と気付いた特徴について概ね妥当な内容を書いているか</u> （知識）等を評価する。	◎	◎	○



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校音楽 2年「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫しよう」(A表現(1)歌唱)における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・「荒城の月」と「早春賦」の雰囲気の違いなどについて対話しながら、雰囲気の違いが音楽を形作っている要素の働きによって生み出されていることに気付いているか(知識)等を見取る。	○	○	◎
	演奏(歌唱)の聴取	毎時間	・ブレスの位置を変えて歌うなどしながら、言葉のまとまりや、言葉のまとまりを生かして歌うために必要な息の量などに意識を向けられるようにする。	◎	○	△
	発言	毎時間	・リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている(思考・判断・表現)等のよい発言を取り上げ、広める。	○	◎	○
	ワークシート等	毎時間	・楽譜に書き込まれた言葉や記号などから、曲の雰囲気や表情がどのような音楽の構造によって生み出されているかを捉えているか(知識)等を見取る。	◎	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・自分が知覚・感受したことや他者の気付きなどを基に、どのように歌うかについて考えたり他者と共に歌い試したりしている様子(主体的に学習に取り組む態度)等を評価する。	△	○	◎
	演奏(歌唱)の聴取	適宜	・思いや意図と発声、言葉の発音、呼吸する際の体の使い方などとの関係を意識して歌わせ、学習した内容が歌唱表現に表れているかを評価する。	◎	○	—
	発言	適宜	・グループでの意見交換においてどのように工夫して歌いたいかについて発言している(思考・判断・表現)様子を評価する。	◎	◎	○
	振り返り	適宜	・学習の全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などにふれながら学んだことを書いているか(主体的に学習に取り組む態度)を評価する。	○	○	◎
	ワークシート等	適宜	・感じ取った曲想や音楽の構造、歌詞の内容などにふれながら、どのように歌いたいかについて自分なりの思いや意図を書いているか(思考・判断・表現)等を評価する。	◎	◎	○

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。



生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

☆中音「指導と評価の一体化」のための学習評価に関するQRコード

「中音」授業☆ 指導と評価の一体化

中学校美術「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	活動・ 発表・対話 の様子	適宜	・表現活動では、学習状況を把握し、次時の授業や個別学習に生かす。 ・鑑賞活動では、造形的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図などについて感じとったり考えたりしているか、見方や考え方を深めているかを把握し、次時の授業や個別学習に生かす。幅広い見方や感じ方を、全体で共有する。	○	◎	◎
	作品 等	適宜	・生徒の主題を把握し、思いが表れた作品や表し方を工夫している作品を紹介し、共有する。 ・知識及び技能の習熟の状況を把握する。	◎	○	△
	ワークシート等	適宜	・造形的な視点を理解できているか、制作中の試行錯誤の様子などを把握する。	○	◎	△
	アイデアスケッチ	適宜	・発想や構想を深めることができているか、制作中のつまずきがないか、造形的な視点を理解し活用できているかなどを把握する。	○	◎	○
観点別学習状況 の評価 (観点ごとに評価 し生徒の学習状況 を分析的に捉える もの)	活動・ 発表・対話 の様子	適宜	・表現活動では、よりよい表現をめざして、 <u>試行錯誤を繰り返しながら発想や構想し、技能を工夫改善しているか</u> (思考・判断・表現、技能)を評価する。 ・鑑賞活動では、造形的な視点をもとに感じ取ったり考えたりしているか(知識)、自分の見方や感じ方を深めているか(思考・判断・表現)などを評価する。 ・表現及び鑑賞の活動を通して、「 <u>知識及び技能</u> 」や「 <u>思考力,判断力,表現力等</u> 」の資質・能力を生徒が身に付けようとしている <u>姿</u> を評価する。(主体的に学習に取り組む態度)	◎	◎	◎
	アイデアスケッチ	適宜	・造形的な見方・考え方を働かせて、主題を生み出し、創造的に発想や構想をしているか(思考・判断・表現)を評価する。 ・ <u>発想や構想は制作中に形を変えていくこともあるので、制作途中の作品を中心に、完成作品を再評価する。</u>	◎	◎	○
	作品 等	適宜	・制作途中での作品の暫定評価を、様々な資質・能力が働いた跡が見られる完成作品で再評価し、技能の高まりを評価する。 ・知識について実感的な理解をしていれば、作品(技能)にも表れると考えられるので、 <u>知識と技能を一体的に評価することも考えられる。</u>	◎	◎	△
	ワークシート等	適宜	・造形的な視点に着目できたか、制作中の試行錯誤の様子や見通しをもち、手順を考えて制作できているかなどを評価する。	◎	○	◎
	鑑賞カード等	適宜	・鑑賞カードでは、 <u>提出状況や記述量だけでなく、根拠を明確にしなが</u> ら造形的な視点を理解できているか(知識)、見方や感じ方を深めているか(思考・判断・表現)を評価する。	◎	◎	◎
	ペーパーテスト	適宜	・知識を見る問題では、暗記だけのテストにならないよう、 <u>造形的な視点に着目させるような設問</u> や知識について実感的な理解を見ることができるとする等の工夫をする。	◎	◎	△

◎…積極的に評価の対象、○…評価の対象、△…場合によっては評価の対象

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校美術 1年 「花の命を感じて」（感じ取ったことや考えたことを基にした表現）における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	活動の様子	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の場面では、花を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、生命感などを基に主題を生み出すことや、主題を表すための構想がまとまらない生徒、意図に応じた表現の工夫につまずきを感じている生徒の状況を把握し、手だてを講じる。 ・授業の鑑賞の場面では、ワークシートの記述の内容や発言の内容から、鑑賞が深まっていない視点等について、個々の支援や学級全体に助言をする。 	◎	◎	○
	ワークシート			○	◎	◎
	アイデアスケッチ等	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想の場面では、「思考・判断・表現」の視点で、感じ取ったことを基に主題を生み出すことや、主題を表すための構想がまとまらない生徒の状況を把握し、手だてを講じる。 ・〔共通事項〕との関連（知識）を意識させることも大切である。 	◎	◎	○
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	活動の様子	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動では、楽しく発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えること（以後、〔共通事項〕）を理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために心豊かに構想し、意図に応じて工夫して表そうとしている態度を評価する。 ・鑑賞活動では、楽しく作品を鑑賞しているか、〔共通事項〕を理解しようとしているか、造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとしていたりしているかを評価する。 	△	△	◎
	ワークシート	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・発想や構想の場面では、主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかを「思考・判断・表現」の視点で評価する。 ・表現の場面では、水彩絵の具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表しているかなどを見取るとともに、〔共通事項〕を理解しているかどうかを合わせて見取り、「知識・技能」の視点で一体的に評価する。 ・制作途中の作品を暫定評価し、完成作品で再評価することで、知識及び技能や、発想や構想に関する変容や高まりを評価する。 ・技能が不十分なため、完成作品からだけでは知識や発想の状況が見とれない生徒などは、ワークシートやアイデアスケッチなどから再確認し、評価する。 	◎	◎	◎
	アイデアスケッチ					
	作品					
鑑賞カード等	適宜	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げられているかを評価する。 	◎	◎	○	

◎…積極的に評価の対象、○…評価の対象、△…場合によっては評価の対象

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校技術・家庭科（技術分野）「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・観察項目等をあらかじめ準備しておく。	◎	—	○
	振り返り（感想等）	適宜	・学習内容が理解できているか、また、それに係る製作、制作等が適切にできているかを把握し、次時の授業や個別指導に生かす。	◎	—	○
	発表	適宜	・考えたことを分かりやすく表現できているところを評価し、全体に広める。	○	○	—
	ワークシート、レポート等	適宜	・評価の観点に応じた学習状況を把握できる項目を設定する。 ・各項目の問いかけ方を工夫する。	○	◎	○
	ペーパーテスト	ある程度の内容のまとまりごとに実施	・全体の定着状況が不十分であれば、次時の授業構想を変更する。 ・個別指導等の手だてを講じる。	◎	○	—
	ポートフォリオ	適宜	・学びを振り返り、自分なりに解決しようと主体的に取り組んでいるかを把握する。	—	—	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・技術の見方・考え方等を取り上げ、評価に反映する。 ・製作、制作等においては作品の結果のみを評価せず、適切に評価場面を設定し学習内容を理解するとともに、それらに係る技能を身に付けているかを含めて評価する。	◎	—	○
	ワークシート、レポート等	適宜	・考えや思考の過程を言語化したり、解決方法を図示させたりして評価する。	○	◎	○
	ペーパーテスト	ある程度の内容のまとまりごとに実施	・学習内容を理解しているかを評価する。（知識・技能） ・作業・育成計画や設計に係る場面を設定し、適切な解決方法を具体的に記述しているかを評価する。（思考・判断・表現）	◎	○	—
	ポートフォリオ	適宜	・学びの軌跡を可視化して、生徒の変容を評価する。	—	—	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校技術・家庭科（技術分野）「災害時の問題を解決しよう！」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・製作・実装に必要な図をかき表すことができるか、安全・適切に製作・実装することができ、製作品の動作及び調整等ができるかを把握し、次時の授業や個別指導に生かす。	◎	—	○
	振り返り（感想等）	毎時間		◎	—	○
	ワークシート、レポート等	適宜	・技術の見方・考え方を働かせ、「電気に関する技術」で解決できそうな災害時の問題を見いだしたり、解決策を構想したりすることができているかを把握する。	○	◎	○
	ポートフォリオ	適宜		—	—	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・解決策を文章や回路図で表しているか、安全に配慮した作業や点検及び調整等ができているかを評価する。	◎	—	○
	ワークシート、レポート等	適宜	・問題を見いだして課題を設定したり、課題の解決策となる災害時に役立つ製作品の構造や電気回路などを、使用場面などの条件を踏まえて構想したりすることができているかを評価する。	○	◎	○
	ペーパーテスト	ある程度の内容のまとまりごとに実施	・部品の特徴や性質、図記号を用いた回路図のかき方、部品の安全な接合や電気回路の点検及び調整方法等について理解できているかを評価する。(知識・技能) ・使用できる部品等の条件を示した上で、目的とする電気回路が設計できているかを評価する。(思考・判断・表現)	◎	○	—
	ポートフォリオ	適宜	・設計・製作等の過程を振り返ったり、製作品の自己評価をしたりして、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとする事等を具体的に記述しているかを評価する。	—	—	◎



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校技術家庭科「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する資料

中学校技術・家庭科（家庭分野）「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察	毎時間	・学習内容が理解できているか、また、それに係る調理や製作等が適切にできているかを把握し、次時の授業や個別学習に生かす。	◎	—	○
	振り返り	毎時間		◎	—	○
	発表	毎時間	・調理や製作等について、考えたことを分かりやすく表現できているところを評価し、全体に広める。	○	○	—
	実習計画 実践記録表	適宜	・学習状況を把握できる評価場を設定し、自分の実践を評価したり改善したりしているかを把握する。	—	◎	○
	ポートフォリオ	適宜	・課題解決に向けて、主体的に粘り強く取り組んでいるか、学習の進め方を振り返るなど自らの学習を調整しようとしているかを把握する。	—	—	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察	適宜	・生活の営みに係る見方・考え方などを取り上げ、評価に反映する。 ・調理や製作においては、適切に評価場を設定し、学習内容を理解するとともに、それらに係る技能を身に付けているかを評価する。	◎	—	○
	ペーパーテスト	ある程度の内容にまとまりごとに実施	・学習内容を理解しているかを評価する。(知識・技能) ・実践に向けた計画を考える場を設定し、適切な解決方法を具体的に記述しているかを評価する。(思考・判断・表現)	◎	○	—
	実習計画 実践記録表	適宜	・評価・改善する力については、他の生徒の意見や発表を取り入れ、新たな改善策を記述しているかを評価する。	—	◎	○
	報告会	単元末	・課題解決に向けた一連の学習過程を通して実践したことや考察したことを、筋道を立てて説明したり、発表したりしているかを評価する。	—	◎	○
	ポートフォリオ	適宜	・適切に自己評価し、他の生徒の意見を参考に改善しようとすることを具体的に記述しているかを評価する。 ・学習したことを他の場面にも生かすなど、実践しようとすることを具体的に記述しているかを評価する。	—	○	◎



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校技術・家庭科（家庭分野） 2年「健康・快適で持続可能な衣生活」における「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察 振り返り 相互評価	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯の仕方について理解し、適切にできているかを把握し、次時の授業や個別学習に生かす。 相互評価では、洗い方のDVD（見本）を用意し、比較できるようにしておくなど、技術の上達を確認できるように工夫する。 	◎	—	○
	発表	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の洗濯、日常着の手入れ、生活を豊かにするための布を用いた製作において、実験観察や製作を通して考えたことについて、分かりやすく表現できているところを評価し、全体に広める。 	○	◎	—
	確認テスト 練習布	適宜	<ul style="list-style-type: none"> まつり縫いの特徴やまつり方のポイントについて、縫い方の見本を用いて自己評価したり、相互評価したりする。適切に縫えていない生徒に対しては、再度詳しく説明したり、動画を視聴させたりして、縫い方を確認できるよう個に応じた指導を工夫する。 	◎	—	○
	ポートフォリオ 製作計画・ 実践記録表	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の選択、日常着の手入れの仕方、衣服等を再利用した生活を豊かにする物の製作等において、粘り強く取り組んでいるか、または、自らの学習を調整しようとしているかを把握する。 	○	○	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	確認テスト 練習布	ある程度の内容にまとまりごとに実施	<ul style="list-style-type: none"> まつり縫いやスナップ付けの特徴や縫い方のポイントなどを理解しているか、また、適切にできるかを評価する。(知識・技能) 洗濯の実習から学んだことを活用して適切な解決方法を考え、工夫点やその理由を記述しているかを評価する。(思考・判断・表現) 	◎	◎	—
	製作計画・ 実践記録表 再利用作品	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 縫い方の特徴を理解し、適切な箇所を、適切な縫い方で縫っているかについて、縫う箇所に応じた縫い方を選び、その理由を記述しているか(記録表)、適切な縫い方で縫っているか(作品)を評価する。 	◎	—	○
	ポートフォリオ	適宜	<ul style="list-style-type: none"> 今まで学んだ衣服の選択、日常着の手入れ、衣服等の再利用を生かし、よりよい衣生活の実現に向けて、工夫し実践しようとする事等を具体的に記述しているかを評価する。 	—	○	◎



◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校保健体育「学習評価と評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	行動観察 机間観察 発表(個人・グループ)	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> よい動きをとりあげ、見本として実施するなどして紹介する。 動き等のよいところを評価し、全体に広める。 どの程度、技能が身に付いているか等を把握する。 	○	○	○
	アンケート(事前・事後)	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 既習状況や成果等を把握する。 	—	—	○
	ICT機器	単元による	<ul style="list-style-type: none"> 互いの動きを撮影した動画等を活用して、よい動きを共有する。 	◎	—	○
	振り返り(感想等)	多	<ul style="list-style-type: none"> 書き方や考え方の視点を示して、よい記述等は紹介する。 	○	◎	○
	学習カード等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> よい記述(学び方)は、提示するなどして紹介する。 	—	◎	—
	レポート	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> 優れたレポートはどこが優れているか紹介する。各レポートにはコメントを入れる。 	○	◎	—
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	行動観察・机間観察	観点を絞って実施	<ul style="list-style-type: none"> 体育や保健の見方・考え方等に着目し、評価に反映する。 	○	◎	◎
	発表(個人・グループ)	単元による	<ul style="list-style-type: none"> 発表の回数のみで評価しない。「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。発表の機会が均等でない場合に留意する。 	○	○	△
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述等を取り出して評価の対象にしない。 	△	○	◎
	学習カード等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 提出状況や記述量のみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。 	△	◎	○
	実技テスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り組んだ動きの習得状況について確認する。技能の出来映えのみを評価するのではなく、知識と一体的に評価する。 	◎	—	—
	定期テスト	学校による	<ul style="list-style-type: none"> 事実的な知識の習得と知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。 	◎	○	—
	レポート	1回程度/単元	<ul style="list-style-type: none"> コメントを返すことで評価する。 	○	◎	○

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校保健体育 1年 「器械運動（マット運動）」における「学習評価と評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点	観 点		
				知	思	態
指導の改善に 生かすための 評価 (生徒の学習改善、 教員の指導改善に 生かす評価)	行動観察 説明・発表(個人・グループ) 振り返り(感想等)	毎時間	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技の習得状況を把握し、不十分であれば次時以降の授業構想を変更するとともに、個別指導等の手だてを講じる。 技の課題を解決するためのポイントを整理した表や図等を示す。 書き方や考え方の視点を提示して、よい記述等を紹介する。 	○	○	○
	I C T機器による 記録	ねらいを明確に して適切に	<ul style="list-style-type: none"> 互いの動きを撮影した動画を見合ったり、教師が全体に掲示したりして、よい動きを共有する。 	◎	—	○
	学習カード等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 技の練習や習得の過程におけるポイントやコツ等を記載したカード(学び方)は、提示するなどして広める。 	—	◎	—
観点別学習状 況の評価 (観点ごとに評価 し生徒の学習状況 を分析的に捉える もの)	行動観察	観点を絞って 実施する	<ul style="list-style-type: none"> 自己の課題を見付け、それに適した練習方法を選択している姿を取り上げ、評価に反映する。 	—	○	◎
	説明・発表(個人・グループ)	適切に設定する	<ul style="list-style-type: none"> 技の課題を解決するための合理的な動き方の説明等の「知識・技能」「思考・判断・表現」を関連付けた説明を評価する。 	○	○	△
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 技の出来映えの質的变化等に関する記述等、「知識・技能」「思考・判断・表現」を関連付けた記述を評価の対象とする。 	○	○	◎
	学習カード等	3、4回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 提出状況や記述量のみで評価するのではなく、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のある記述を評価する。 	△	◎	○
	実技テスト	1、2回/単元	<ul style="list-style-type: none"> 自らの体力や技能の程度に応じて条件を変えた技、発展技などの習得状況について評価する。 	◎	—	—
ペーパーテスト	適切に設定する	<ul style="list-style-type: none"> 技の名称などの「事実的な知識の習得」のみならず、技の課題を解決するための合理的な動き方のポイント等、「知識の概念的な理解」を問う問題を扱う。 	◎	○	—	

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



中学校外国語「学習評価の評価方法・場面」等の例

評価の種類	方法	頻度	留意点等	観 点		
				知	思	態
指導の改善に生かすための評価 (生徒の学習改善、教員の指導改善に生かす評価)	机間観察	毎時間	・どの程度身に付いているか等を把握する。	○	○	—
	ペアワーク (やり取り)	毎時間	・目的や状況等に応じた発話内容を取り上げて紹介する。 ・共通する誤りや表現できない内容等(内容面・言語面)を取り上げて全体で考えながら修正する。	○	○	△
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	・振り返りの視点を提示して書かせ、よい記述等は紹介する。	△	◎	◎
	確認問題	必要に応じて	・言語材料や技能の定着を確認するライティング等を実施する。	◎	○	—
	パフォーマンステスト	やり取り 発表 書くこと	1回程度/単元	・ループリックを生徒と共有し、目的や状況等とともに活動前に理解させる。使用する言語材料は明示しないが、使用させたい言語材料を使って教師が生徒とやり取りをする。	◎	◎
観点別学習状況の評価 (観点ごとに評価し生徒の学習状況を分析的に捉えるもの)	机間観察	観点を絞って	・粘り強くやり取りしようとするなどの態度で優れているもの等を評価に反映する。	—	○	◎
	ペアワーク (やり取り)	必要に応じて	・言語活動に取り組ませ、「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連付けて評価する。数ペアしか評価できない点に注意する。	○	○	△
	振り返り(感想等)	3、4回/単元	・「授業がおもしろかった」等の「知識・技能」「思考・判断・表現」と関連のない記述のみを取り上げて評価の対象にしない。	△	○	◎
	単元(小)テスト	1、2回/単元	・「知識・技能」は特定の言語材料を必ず使用させて評価するが、「思考・判断・表現」は必ず使用しなければならないわけではないことに留意して評価する。英語使用の正確さを評価する場合も、文脈を伴ったり、実際のコミュニケーションの目的や場面、状況をつくったりすることに留意する。	◎	○	—
	定期テスト等	適切に設定する		◎	◎	—
	パフォーマンステスト	やり取り 発表 書くこと	1回程度/単元	・「主体的に学習に取り組む態度」は自己評価も参考にした上で、基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価する。「思考・判断・表現」については、発話の不正確さなどに惑わされることなく発話内容から評価する。	◎	◎

◎…積極的に評価の対象とする。 ○…評価の対象とする。 △…場合によっては評価の対象とする。

生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。



